

第11回「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」結果概要

○日時 平成28年1月20日（水）午後4時～午後5時

○場所 宇都宮市役所本庁舎 14大会議室（14階）

○内容 1 開会

2 あいさつ（森本委員長）

3 議題

(1) 軌道運送高度化実施計画について

4 その他

5 閉会

【主な発言の要旨】

3 議題

(1) 軌道運送高度化実施計画について … 資料1

【事務局】

- ・ 資料1 説明

【委員長】

- ・ 先ほどの事務局の説明では費用便益比が1.12となり、1を上回ることになる。また、人口減少フレームということで毎年0.5パーセントの人口減を想定した推計であるが、「ネットワーク型コンパクトシティ」の考え方や、「立地適正化計画」の策定により、LRT沿線の人口を増やすためにこれから努力していくということである。そうした点も今後、プラス要因となると思われるが、厳しめの推計を採用しているということであり、計画としてはこれで良いのではないかと思う。

需要確保に向けた取組としては、今後、どのようなものを考えているのか、最初に宇都宮市として荒川委員にご意見をいただければと思う。

【荒川委員】

- ・ 本市としては、これまで清原工業団地内の企業の皆さんとお話をさせていただいており、このプロジェクトに対して高い評価と期待をいただいているところである。
計画内容については、より具体化してきたところであり、これを踏まえながら、今後とも沿線の各企業の皆さんと連携を図り、利用促進に向けた取組を進めていきたいと考えている。更にはLRTの沿線地域には鬼怒川の河川敷や、清原工業団地内の野球場、サッカー場、体育館等のスポーツ施設もあり、これらを活用した地域での様々なイベント等の開催も検討していきたいと考えている。
- ・ 補足になるが、1月18日（月曜日）は宇都宮でも積雪があり、残念なことに清原工業団地方面でのトラックの事故により、JR宇都宮駅から清原方面に向かって大渋滞が発生し、その結果、移動に2～3時間かかったと伺っている。清原方面から市内に向かう方向でも同様に所要時間がかかったそうである。このように悪天候や災害の際には、現在のような移動手段の

ほぼ全てを自動車交通に頼るシステムはいろいろな問題が生じるものと感じている。これは我々、行政だけの問題ではなく、企業の皆さんにとっても企業活動の継続性等の観点から問題があるのではないかと改めて認識していただけるものと思う。

- ・ そうした点も含めて自動車交通に加え、新たな軌道事業、LRT を導入し宇都宮東部地域の交通のリダンダンシー（多重性）を高めていきたいと考えており、こうした共通認識を基に、沿線の各企業の皆さんや市民・町民の皆さんとともに今後の取組を進めていきたいと考えている。

【委員長】

- ・ 芳賀町として上野委員は如何か。

【上野委員】

- ・ まず、芳賀町のLRTに対する取組として事業計画を実現するためには、町にある2つの工業団地、ここに立地する企業、従業員の皆さんにどれだけ利用していただけるのかが一番重要なポイントであり、町のLRT計画を立地企業の皆さんにご説明する中で計画については概ねご理解をいただいているものと感じている。今後、LRTの利用者数を増やし、将来にわたり継続できる事業にするためには、従業員の皆さんにどれだけ利用していただけるのかという点で行政として直接的な関わりを持っていきたいと考えており、約100社を超える企業が立地する中で、協力をいただける企業もあれば直接的に関係のない企業もあり、総合的に利用できる、利用していただける環境を如何に創出するかが課題であると捉えている。

また、行政としては各企業に直接お願いを行うとともに、芳賀工業団地には「芳賀町工業団地連絡協議会」という組織があることから、そちらを通じての働きかけを行い、官と民が連携し、この事業を推進していけるよう取り組んでいく。

最近の傾向としては、昨年1年間で芳賀工業団地に新たに立地した企業や、企業の設備投資の増進などもあり、おそらく従業員だけで約1,000人は増えているとの情報も伺っていることから、こうした整備計画等と併せて更に利便性を高めていけば企業からの需要も高まるものと思う。

- ・ 次に、LRTの計画自体は現時点の終点が芳賀・高根沢工業団地付近ということで芳賀町の西の端になってしまうが、町民の皆さんにとっては、LRTをどのように利用することができるのかが一番関心の高いところである。そのため、町としては、LRTと既存のバス路線を如何につないでいくのか、また、それらをどのように維持・拡充していくのか、更にはデマンド交通として町には「ひばりタクシー」があるが、この機能を充実させ、町民の足としてLRTに接続する手段を拡充していきたいと考えている。
- ・ 更には、芳賀町の東方に位置する観光地や自治体も様々なイベント等を実施していることから、観光客等の足を確保するという観点で近隣の市町と協議を行い、LRTを利用していただく取組を図り、需要の拡大につなげていければと考えている。

【委員長】

- ・ 詳しくお話いただき、ありがとうございました。

【内野委員】

- ・ 今回の計画の推計では、人口減少の考え方や経費に係る物価上昇率等が要因となり、これ

までの推計より数値が下がっているが、これは大変手堅い数値であり、これを最低限として捉え、いざ経営の実践になったら、先ほどの荒川・上野両委員のご発言のとおり、沿線企業と協力し、様々な機会を捉え乗客の確保に積極的に取り組んでいただきたい。

今回の数値を一番底とし、数値を上げていくことが経営であり、第3セクターであってもそうした取組は可能であると考えことから、私はこの計画を了承したいと思う

【委員長】

- ・ 内野委員のご発言は心強く、安心できるものである。
- ・ 私からは、沿線人口も含めた企業動向について現在の運行計画は、固定的に朝のピーク時間帯が書いてあるが、実際にはそうした企業の動向等とマッチした運行ダイヤを策定していくものと考えてるので、より一層の情報共有と、そうした情報を営業主体との運行計画策定に反映できるような体制づくりをお願いしたい。
- ・ 本日ご欠席の委員からコメントをいただいているのであればご紹介いただきたい。

【事務局】

- ・ 事務局より、岸井委員のご意見を紹介する。
- ・ 「需要予測や収支計画において、より安全側でリスクをとることは、中長期的な事業の成立性を見る上では重要である。一方、LRTの導入により沿線の土地利用の高度化が図られ、人口増が見込まれること、更には『立地適正化計画』や拠点形成などのLRT導入に合わせた、まちづくり施策に取り組み、沿線への居住誘導等を図ることにより、一定の需要が確保できるのではないかと考える。」

【事務局】

- ・ 次に、望月委員のご意見を紹介する。
- ・ 「1点目としては、施設・車両の修繕費や更新費の負担のあり方を明確にすべきである。計画内容については、需要や収支計画を安全側で見えており、経営が安定的に行われるものと考えられる。このスキームでは開業後、早期に営業黒字になる事が予想され、その営業利益をどう活用するかについて、宇都宮市、芳賀町、宇都宮ライトレール株式会社の間で開業前までに明確化しておくことが必要である。具体的には、市民・町民負担の軽減のため、営業利益の一部をこの施設・車両の修繕や更新費用に充てるべきで、その仕組みについて宇都宮市、芳賀町と宇都宮ライトレール株式会社との間で明確化しておくべきである。その際、運営会社の経営努力のインセンティブが働くようにも配慮すべきと考える。」
- ・ 「2点目としては、オフピーク時の運行頻度についてである。このシステムは平日のピーク時の輸送量が大きいが、それ以外の時間帯については需要が減少することが特徴である。このため、具体の運行計画策定に当たっては、オフピーク時のサービスレベルについて公共交通としての利便性を確保することと、過大なサービスとならないことの両面を熟慮の上、慎重に検討されたい。また、休日は沿線のイベントとの連携など多様な活動を展開するよう運営会社だけでなく、行政もしっかりサポートすることが重要である。」

【委員長】

- ・ 私から、1点申し上げたい。先程の荒川委員のご発言にもあったとおり、先日の大雪時、私も渋滞に巻き込まれてベルモールからJR宇都宮駅まで来ることができず、バスの停留所で

30分待ってもバスが来ないという状態であった。LRTについては、こうした悪天候時の公共交通として非常に期待できるものであると思う。また、リダンダンシーの確保という点で非常に重要なものとする。

一方、大雨や大雪の際のLRTの定時運行については、あらかじめどのような対応が可能なかを想定しつつ、そうした際の仕組みを取り入れていくことが重要になると思う。現在の検討は平時におけるものであるが、LRTという交通システムは、市民が困った際に現在検討している数値以外の部分で大きな便益をもたらす可能性が高いものと認識しているので、そうした場合の対応も可能な範囲で進めていただきたい。

- ・ また、1点伺いたい。今後のスケジュールについては、本日の委員会で議論いただき、その後、計画として策定し、国への認定申請を行うことになるが、その後のスケジュールで想定している事項、また、情報共有すべき事項があればお知らせ願いたい。

【事務局】

- ・ 「軌道運送高度化実施計画」の認定をいただいた後のスケジュールとしては、工事に関する施行認可等の法的手続きが必要となる。それらの取得に向けては、この委員会にて議論いただく事項が出てくると思われるので、引き続き、ご協力をお願いしたいと考えている。

【委員長】

- ・ 本日、国土交通省の方々を含め、関係のある方々がお集まりになっている。私からも、今後のスケジュールをスムーズに進めていくために、緊密な連携を図り、例えば申請時の手続を効率的に進めていただくなどのご協力をお願いしたい。

【行政アドバイザー】

- ・ 先程の委員のご発言では、堅い収支計画であることや、営業利益について仕組みとして用途を明確にすることなどのご意見があったが、一方で、需要やコストについては変化しうるものであり、下振れすることもあり得るので、そのような場合でも対応できるよう、どのような支援をいただくことが可能なのか、関係者の方々から、あらかじめご意見をいただいております。今後、そうした支援の体制や方法などを協議する枠組みについても検討いただければと思う。

【委員長】

- ・ ご助言ありがとうございます。
- ・ 本日の議題については、貴重なご意見をいただいたところである。事務局の案を基本に取りまとめた上で、計画策定に移ることで皆さん、よろしいでしょうか。

【各委員等、了承】

【委員長】

- ・ それでは、国への申請に向けて手続を進めていただきたい。

4 その他

【事務局】

- ・ 次第の「4 その他」について、ご連絡する。
- ・ 次回の検討委員会については、後日、改めてご案内させていただく。
- ・ 以上で、本日の会議を終了する。

以上